科目名	解剖生理学Ⅰ	時期	1年次　前期
講 師	小林 千紘	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	人体の構造と機能を学ぶ		
目 標	人体の発生と構成する単位(細胞・組織・器官系)と人体の構造を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☐ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☐ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験、平常点、出席などから総合的に判断する		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方 法
1～4	血液のはたらき	血液のはたらき 免疫 体温	講義
5･6	全身の脈関係	全身の脈管系 静脈系 リンパ系	
7～9	循環器系の構造と機能	心臓の構造・機能 心電図 血圧、心周期、胎児循環	
10～15	呼吸器の構造とはたらき	呼吸器系のはたらき 鼻腔・咽頭 喉頭、気管、気管支 肺、肺胞 呼吸のメカニズム 換気障害	
別時間			

科目名	解剖生理学Ⅱ	時期	1年次　前期
講 師	鳥海 拓　　小林 千紘	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	人体の構造と機能を学ぶ		
目 標	人体の発生と構成する単位(細胞・組織・器官系)と人体の構造を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☐ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☐ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験、平常点、出席などから総合的に判断する		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方 法
1～4	泌尿器系の構造と機能	泌尿器系全景 腎機能 排尿路、排尿・蓄尿のしくみ 体液の調節	講義
5～7	生殖器系の構造と機能	生殖器 男性生殖器 女性生殖器 女性の性周期とホルモン	
8～15	消化器系の構造と機能	消化器系総論 口腔の構造と機能　（鳥海先生担当） 食道、胃 小腸・大腸 肝臓、胆嚢、膵臓 消化の過程 腹膜、まとめ	
別時間	試験		

科目名	解剖生理学Ⅲ	時期	1年次　前期
講 師	小林 千紘	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	人体の構造と機能を学ぶ		
目 標	人体の発生と構成する単位(細胞・組織・器官系)と人体の構造を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☐ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☐ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験、平常点、出席などから総合的に判断する		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方 法
1･2	からだの骨格と筋	骨学総論	講義
		筋学総論	
3･4		体幹の骨と筋	
5･6		頭頸部の骨と筋	
7･8		上肢の骨と筋	
9･10		下肢の骨と筋	
11		骨･筋まとめ	
12～15	内分泌系の構造と機能	内分泌系・ホルモン	
別時間	試験		

科目名	解剖生理学Ⅳ	時期	1年次　前期
講 師	小林 千紘	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	人体の構造と機能を学ぶ		
目 標	人体の発生と構成する単位(細胞・組織・器官系)と人体の構造を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☐ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☐ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験、平常点、出席などから総合的に判断する		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方 法
1～9	脳と脊髄、末梢神経系	神経系総論 中枢神経の構造と機能 ニューロン、大脳皮質 伝導系、高次機能 脊髄 脳神経 中枢神経系の血液循環、	講義
10～14	感覚機能の構造とはたらき	特殊感覚器の構造と機能 視覚器、味覚器、嗅覚器 体性感覚器 細胞、DNA	
15	解剖見学	解剖体、諸臓器の観察	見学実習
別時間	試験		

科目名	生化学	時期	1年次　前期
講 師	山本 達男	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	人体を構成する化学物質の種類と構造、機能、代謝等に関する基礎知識を学ぶ。		
目 標	1 人体の構成成分である科学物質の性状・分布・代謝について理解する 2 細胞、エネルギー産生、物質の合成と分解(解毒)、情報伝達と調節等の生命現象(恒常性)を理解する 3 恒常性が破綻した状態(つまり疾患)の代表例を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	□ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 □ 4.連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学 医学書院		
参考文献	適時印刷資料を配付し、教材とする。		
評 価	授業での小テストと筆記試験		

授 業 計 画

回数	項 目	内 容	方 法
[1]1～2	生化学の基礎知識 細胞の構造と機能 核酸	生命、元素、有機化合物、極性、官能基、結合様式、イオン、酸と塩基 細胞膜、細胞小器官、核の仕組みと働き、遺伝情報(複製、転写、翻訳) プリン・ピリミジン塩基、ヌクレオチド、DNA と RNA	講義
[2]3～4	糖質(1)	単糖、二糖、多糖の種類と構造 分子構造模型セットを使って組み立てる。	講義と演習
[3]5～6	糖質(2) 脂質(1)	単糖、二糖、多糖の特性、疾患(糖尿病)・軟骨との関連を理解する。 中性脂肪、その成分であるグリセロールと脂肪酸(飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸)、リン脂質、脂質輸送	講義と演習
[4]7～8	脂質(2) タンパク質・酸素	脂質の特性、脂質異常症(動脈硬化)との関連を理解する。 アミノ酸の種類と働き、タンパク質の種類と機能 酵素反応、アイソザイム、酵素と補酵素、逸脱酵素 タンパク質の構造特性・疾患(神経変性)との関連を理解する。	講義と演習
[5]9～10	水と無機質:関連疾患 血液 尿 ビタミン	水、浸透圧、アシドーシスとアルカローシス、Ca と骨粗鬆症、Fe 赤血球、白血球、血液凝固系と DIC、免疫系を細胞モデルで理解する。 腎単位、尿生成、腎不全 脂溶性・水溶性ビタミン、補酵素、抗酸化作用	講義と演習
[6]11～12	ホルモン:内分泌疾患 高エネルギー化合物 酸化と還元	ホルモンの種類(構造、作用、受容体)、フィードバック調節、日内変動 ATP、ホスホクレアチン等 定義、乳酸脱水素酵素(LDH)、解糖系、 Fe・ヘモグロビン	発表会
[7]13～14	代謝(糖質) 代謝(脂質) 代謝(タンパク質) 代謝と疾患	輸送、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、糖新生 脂肪酸のβ酸化、ケトン体、注目される脂肪酸 AST と ALT、尿素回路、血清クレアチニン 黄疸、高尿酸血症(痛風)	講義
[8]15	まとめ 終了試験		
別時間	中間試験		

科目名	栄養学	時期	1年次　後期
講 師	管理栄養士	単位(時間) 回数	1単位(15時間) 8回
科目の概要	看護に必要な栄養の基礎知識と対象に応じた食事療法を学ぶ		
目 標	1 人間にとっての栄養を理解する 2 治療における栄養管理について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 新食品成分表Foods 東京法令出版		
参考文献			
評 価	筆記試験		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方 法
1･2	栄養素	1 栄養素の種類と働き	講義
	食物の消化と栄養素の吸収･代謝	1 消化と吸収 2 吸収･代謝産物の排泄 3 食品のエネルギーと消費	
3･4	食事と食品	1 食事とその変遷 2 日本人の食事摂取基準･食品と栄養素	講義
	ライフステージと栄養	1 ライフステージと妊娠･授乳期における栄養 2食生活改善への施策･食の安全性	講義
5～7	食事療法の実際	1 病院食 2 経腸栄養製品 1 病人食の種類と特徴 2 症状を持つ患者の栄養 ･発熱 ･脱水 ･浮腫 ･便秘 ･下痢 ･やせ･過体重 ･摂食 ･嚥下障害 3 疾患を持つ患者の栄養 ･循環器系疾患患者 ･消化器系疾患患者 ･栄養代謝性疾患 ･がん化学療法患者	講義
8	終了試験		

科目名	病理学	時期	1年次　前期･後期
講 師	病理検査室 医師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	人体におこる疾病の概念と、基本的な病態を学ぶ		
目 標	1 病因と疾病の特徴を理解する 2 人体の諸臓器に起こる病変の形態学的変化を理解する		
ディプロマ･ポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力　☑ 2.看護を実践する力　☑ 3.探求する力　☑ 4.連携･協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験（中間･終了）		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法
1～3	序論	1 病理学とは 2 病因論	講義
4～9	細胞のつくりかえ障害によって細胞･組織に生じる変化	1 炎症･変性･壊死 2 循環障害 3 萎縮 4 過形成	
10～15	異常状態に影響する個体の条件	1 腫瘍 2 免疫 3 代謝障害 4 老化 5 先天障害	
別時間	終了試験		

科目名	病態学Ⅰ	時期	1年次　後期
講 師	医 師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	解剖生理学および病理学の基礎知識に基づきながら、疾患と検査、治療を学ぶ。		
目 標	疾患により障害された部位への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	□ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器 医学書院 ③④系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験　①、②、③と④の内容について、それぞれ別日程で試験を実施する		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法	担当講師
1～4	①呼吸器疾患の病態・診断・検査・治療	1 呼吸器総論、肺炎／結核 2 喘息、びまん性肺疾患 3 COPD、睡眠時無呼吸症 4 肺がん、中皮腫	講義	医師1 医師2 医師3 医師4
別時間	終了試験			
5～9	②循環器疾患の病態・診断・検査・治療	1 高血圧 2 狭心症 3 心筋梗塞 4 心不全 5 動脈瘤 6 弁疾患	講義	医師5
別時間	終了試験			
10～11	③神経系疾患の病態・診断・検査・治療	1 パーキンソン 2 筋ジストロフィー 3 ALS 4 脊髄小脳症	講義	医師6
12～15	④脳疾患の病態・診断・検査・治療	1 脳出血 2 脳梗塞 3 くも膜下出血 4 脳腫瘍 5 硬膜下血腫、硬膜外血腫	講義	医師7
別時間	終了試験			

科目名	病態学Ⅱ	時期	1年次　後期
講 師	医師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	解剖生理学および病理学の基礎知識に基づきながら、疾患と検査、治療を学ぶ。		
目 標	疾患により障害された部位への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	□ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院 ②③系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器 医学書院		
技術経験録 演習項目			
評 価	筆記試験 ①、②、③、④の内容について、それぞれ別日程で試験を実施する		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法	担当講師
1～4 別時間	①血液・造血器疾患の病態・診断・検査・治療 試験	1 貧血 2 白血病 3 悪性リンパ腫 4 播種性血管内凝固症候群(DIC) 5 血小板減少性紫斑病	講義	医師1
5～7 別時間	②消化器疾患の病態・診断・検査・治療 【外科的治療】 試験	1 上部消化器疾患(食道がん・胃がん・胃潰瘍) 2 下部消化器疾患(大腸がん・直腸がん) 3 肝・すい臓・胆道疾患(がん・結石・炎症)	講義	医師2 医師3 医師4
8～10 別時間	③消化器疾患の病態・診断・検査・治療 【内科的治療】 試験	1 消化管疾患 2 肝臓疾患 3 すい臓・胆のう疾患(がん・結石・炎症)	講義	医師5 医師6 医師7
11～15 別時間	④運動器疾患の病態・診断・検査・治療 試験	1 骨折 2 椎間板ヘルニア 3 変形性膝関節症 4 脊髄損傷 5 慢性関節リウマチ	講義	医師8

科目名	病態学Ⅲ	時期	1年次　後期
担当者	医師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	解剖生理学および病理学の基礎知識に基づきながら、疾患と検査、治療を学ぶ。		
目 標	疾患により障害された部位への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	□ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 ③⑤系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院 ⑥系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔13〕眼 医学書院 ⑦系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院 ⑧系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔15〕歯・口腔 医学書院 ⑨系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔12〕皮膚 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験 ①と②、③、④と⑤、⑥～⑨の内容について、それぞれ別日程で試験を実施する。		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方 法	担当講師
1～2	①内分泌・代謝の病態・診断・検査・治療	1 糖尿病 2 甲状腺疾患(バセドウ病、粘液水腫)	講義	医師1
3～4	②アレルギー・膠原病・感染症疾患の病態・診断・検査・治療	1 SLE 2 アナフィラキシーショック 3 エイズ、インフルエンザ		医師2
別時間	試験			
5～8	③腎疾患の病態・診断・検査・治療	1 腎不全 2 ネフローゼ症候群	講義	医師3
別時間	試験			
9～10	④女性生殖器疾患の病態・診断・検査・治療	1 子宮筋腫 2 子宮がん 3 卵巣腫瘍(のう腫、がん) 4 乳がん	講義	医師4 医師5
11	⑤泌尿器疾患の病態・診断・検査・治療	1 膀胱炎・膀胱がん 2 前立腺肥大症 3 前立腺がん 4 腎結石		医師6
別時間	試験			
12	⑥眼疾患の病態・診断・検査・治療	1 白内障　2 緑内障　3 網膜剥離　4網膜症	講義	医師7
13	⑦耳鼻科疾患の病態・診断・検査・治療	1 難聴　2 メニエール病　3 副鼻腔炎		医師8
14	⑧歯・口腔・顎関節疾患の病態・診断・検査・治療	1 齲蝕及び歯髄疾患　2 口腔粘膜の疾患		医師9
15	⑨皮膚科疾患の病態・診断・検査・治療	1 白癬 2 湿疹		医師10
別時間	試験			

科目名	病態学Ⅳ	時期	2年次　前期
講 師	医 師	単位(時間)、回数	1単位(30 時間)、15 回
科目の概要	解剖生理学および病理学の基礎知識に基づきながら、小児期における疾患と検査、治療を学ぶ。さらに、妊娠・分娩・産褥における正常な過程と異常について学ぶ。		
目 標	1 小児の疾患における症状のメカニズム、検査、診断、治療について理解する 2 妊娠・分娩・産褥の生理と異常について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	□ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験　①、②の内容について、それぞれ別日程で試験を実施する		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法	担当講師
1～8	①小児疾患		講義	医師1他
	新生児疾患	1 低出生体重児　2 分娩損傷　3 新生児仮死 4 高ビリルビン血症　5 新生児感染症		
	小児の呼吸器疾患	1 肺炎(細菌性、ウイルス性、マイコプラズマ)		
	小児の循環器疾患	1 先天性心疾患(ファロー四徴症 他)　2 川崎病		
	小児の消化器疾患	1 乳児下痢症　2 腸重積		
	小児の血液・造血器疾患	1 貧血 2 出血性疾患:突発性血小板減少性紫斑病		
	小児の悪性新生物	1 白血病		
	小児の腎・泌尿器及び生殖器疾患	1 ネフローゼ症候群		
	小児の神経疾患	1 けいれん性疾患:熱性けいれん		
	小児の代謝疾患	1 糖尿病		
	小児の内分泌疾患	1 下垂体疾患:低身長症		
	小児の免疫疾患、アレルギー性疾患、リウマチ性疾患	1 アレルギー性疾患:気管支喘息 2 食物アレルギー		
	小児の感染症	1 ウイルス感染症:麻疹　2 細菌感染症:百日咳		
別時間	終了試験			
9～15	②妊娠・分娩・産褥		講義	医師２
	正常妊娠	1 妊娠の生理　2 母体の生理的変化 3 胎児の発育と生理　4 妊娠の経過と検査・処置		
	正常分娩	1 分娩の定義　2 分娩の要素と機序 3 分娩の経過　4 分娩が胎児に及ぼす影響		
	正常産褥	1 産褥の定義　2 産褥の復古現象 3 乳汁分泌　4 全身の変化		
	ハイリスク・異常妊娠	1 ハイリスク妊娠　2 合併症妊娠 3 妊娠期の感染症　4 妊娠疾患 5 妊娠と胎児の異常	講義	医師３
	異常分娩	1 産道の異常　2 娩出力の異常 3 胎児の異常による分娩障害　4 付属物の異常 5 胎児機能不全　6 分娩時の異常出血 7 産科手術および処置		
	異常産褥	1 子宮復古不全　2 産褥期の発熱 3 産褥血栓症　4 精神障害		
別時間	終了試験			

科目名	病態学Ⅴ	時期	2年次　前期
講 師	医 師	単位(時間)、回数	1単位(30 時間)、15 回
科目の概要	解剖生理学および病理学の基礎知識に基づきながら、疾患と検査、治療を学ぶ。		
目 標	1 精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態を理解する 2 精神の健康障害の検査、診断、治療について理解する 3 救急医療で対応される機能障害、病態を理解する。 4 放射線による検査と治療について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	□ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院. ②系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 ③系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験　①、②と③の内容について、それぞれ別日程で試験を実施する		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法	担当講師
1～7	①精神疾患の病態・診断・検査・治療 精神症状論と状態像 精神障害の診断と分類	 1 症状とはなにか 2 さまざまな精神症状 1 診断と疾病分類 2 代表的な疾患と障害 1)統合失調症 2)気分障害 3)神経症性障害, ストレス関連性障害および身体表現性障害 4)生理的障害および身体要因に関連した行動症候群 5)パーソナリティ障害 6)認知症 7)アルコール依存症	講義	医師1
	精神科での治療	1 薬物療法 2 電気けいれん療法、修正型電気けいれん療法 3 精神療法 4 環境療法・社会療法 5 その他		
別時間	終了試験			
8～14	②救急医療での主要病態と治療	1 意識障害 2 呼吸障害 3 ショック、循環障害 4 急性腹症 5 脱水症 6 外傷 7 脳死	講義	医師2
	③放射線による検査と治療	1　放射線による検査の目的と特徴 2 放射線療法の目的と特徴		医師3
別時間	終了試験			

科目名	薬理学	時期	1年次　後期
講 師	継田雅美	単位(時間) 回数	1単位(30時間)15回
科目の概要	薬物療法の基礎的知識として、薬物の有効性、安全性、ならびに生体に作用するしくみを学ぶ		
目 標	1 薬物治療の目的を理解し、薬物の作用機序および副作用や人体への影響について理解する 2 治療に用いられる薬剤について学び、薬剤の作用・副作用と取扱いについて理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☐ 1.豊かな人間力　☑ 2.看護を実践する力　☑ 3.探求する力　☑ 4.連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 医学書院		
参考文献			
評 価	筆記試験		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方 法
1･2	薬理学総論	1 薬理学を学ぶにあたって ･薬物による病気の治療 ･薬理学とは何か 2 薬理学の基礎知識 ･薬が作用するしくみ(薬力学) ･薬の体内の挙動(薬物動態学) ･薬物相互作用 ･薬効の個人差に影響する因子 ･薬物使用の有益性と危険性 ･薬と法律	講義
3～14	薬理学各論	1　抗感染症薬 2　抗がん薬 3　免疫治療薬 4　抗アレルギー薬･抗炎症薬 5　末梢での神経活動に作用する薬物 6　中枢神経系に作用する薬物 7　循環器系に作用する薬物 8　呼吸器･消化器･生殖器･泌尿器系に作用する薬物 9　物質代謝に作用する薬物 10 皮膚科用薬･眼科用薬 11 救急の際に使用される薬物 12 漢方薬 13 消毒薬 14 輸液製剤･輸血剤 15 看護業務に必要な薬の知識	
15	終了試験		

科目名	微生物学	時期	1年次　後期
担当者	寺尾 豊	単位(時間) 回数	2単位(30 時間)15 回
科目の概要	微生物の特徴、感染症とその予防および治療を学ぶ		
目 標	1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する 2. 微生物と感染症の理解に基づき、その予防と治療を理解する 3. 感染症の最新動向について理解する 4. 免疫系について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☐ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学 医学書院		
参考文献			
評 価	最終回の筆記試験および毎回授業の小テスト		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方 法
1～2	微生物学の基礎と総論	1. 現在の感染症動向 2. 微生物学の歴史 3. 微生物の分類と構造 4. 抗感染症薬と薬剤耐性＜AMR＞ 5. 感染症の予防と制御	講義
3～4	おもな病原微生物(1)	1. 細菌学総論 2. グラム陽性細菌・グラム陰性細菌と感染症	講義
5～6	おもな病原微生物(2)	1. 抗酸菌・嫌気性菌・スピロヘータと感染症	講義
7～8	おもな病原微生物(3)	1. マイコプラズマ・リケッチア・クラミジアと感染症	講義
9～10	おもな病原微生物(4)	1. ウイルス学総論 2. DNA ウイルス・RNA ウイルスと感染症	講義
11～12	おもな病原微生物(5)	1. レトロウイルス・肝炎ウイルスと感染症 2. 新興・再興ウイルスと感染症 3. 真菌学総論 4. 病原真菌と感染症	講義
13～14	免疫とアレルギー	1. 免疫学総論 2. 自然免疫 3. 獲得免疫(体液性免疫と細胞性免疫) 4. アレルギー 5. ワクチンと副反応	講義
15	終講試験と総括	1. 筆記試験 2. 試験の解説と総復習	試験 講義

科目名	リハビリテーションと看護	時期	1年次　後期
講 師	理学療法士	単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回
科目の概要	さまざまな生活の場における、あらゆる健康状態にある人へのリハビリテーションを学ぶ		
目 標	1　リハビリテーション療法の目的と方法について理解する 2　リハビリテーションにおける看護の役割を理解する 3　その人らしく生きることの支援を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力　☑ 2.看護を実践する力　☑ 3.探求する力　☑ 4.連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院		
技術経験録 演習項目	レベルⅠ　自動・他動運動の援助		
評 価	筆記試験		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法
1～2	リハビリテーションの概念	1 リハビリテーションの目的と考え方 2 主要な概念 ・ICF ・生活モデル ・ADL ・I-ADL ・QOL ・FIM	講義
3～4	身体、心理、社会的なアセスメント	1 自己概念の変容 2 家族支援 3 社会の理解	講義
5～7	援助の実際 （6回目:演習）	1 発達と加齢 2 生活行動 ・呼吸 ・話す ・聞く ・食べる飲む ・排泄 ・動く ・休む ・見る 3 急性期・回復期・生活期 4 自動運動・他動運動 5 起居動作	講義・演習 レベルⅠ 17
8	終了試験		

科目名	医療と法	時期	２年次　前期
講 師	教職員他	単位(時間) 回数	１単位(15 時間) ８回
科目の概要	我が国の保健医療福祉に関する諸制度の概要と規定する諸法令を理解する		
目 標	1 看護に関連する保健医療福祉及び労働に関する法令を理解する 2 保健師助産師看護師法に規定されている看護職の資格・業務・責任について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令 医学書院 シンプル公衆衛生学2026,南江堂 看護職の基本的責務,日本看護協会出版会		
参考文献			
評 価	筆記試験		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法	担当講師
1～2	看護法	1 保健師助産師看護師法 2 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	専任教員
3	労働法と社会基盤	1 労働基準法 2 労働安全保健法 3 労働契約法 他	講義	事務職員1
4	医事法	1 医療法 2 医療の資格に関する法律 ・医師法 他 3 医療を支える法 ・医療介護総合確保法 他	講義	事務職員2
5	移植医療	1 臓器移植に関する法律	講義	外部講師1
6	保健衛生法	1 感染症に関する法	講義	外部講師2
7	薬務法	1 薬事一般に関する法律 2 人などの組織を用いた医療関連法 3 薬害被害者の救済など 4 麻薬・毒薬など	講義	外部講師3
8	終了試験			専任教員

科目名	公衆衛生学	時期	2年次　前期
講 師	笠巻 純一	単位(時間) 回数	2単位(30時間) 15回
科目の概要	衛生学、公衆衛生学の基礎知識を習得するとともに、保健医療のシステムについて理解し、地域集団における健康の保持・増進のための組織的な保健活動について学ぶ。		
目 標	1 衛生・公衆衛生に関する動向について把握できる。 2 疾病の成因と罹患の機序について理解することができる。 3 生活習慣病、感染症等、疾病の予防策について論理的な説明ができる。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	小山洋(監),辻一郎(編), 上島通浩(編). (2026) :シンプル衛生公衆衛生学2026, 南江堂		
参考文献	河田史宝, 内山有子(編著), 朝倉隆司, 池田英二, 籠谷恵, 笠巻純一, 神林康弘, 鈴江毅, 七木田文彦(著). (2018) 養護教諭のための公衆衛生学, 東山書房		
評 価	筆記試験		

授　業　計　画

回 数	項 目	内　容	方 法
1～2	健康と衛生・公衆衛生	公衆衛生学概論:医学、衛生学の起源と発展、衛生学・公衆衛生学の定義	講義
3	現代社会における公衆衛生の課題	寿命と健康寿命、人口静態・人口動態からみた健康課題と対策	
4	ヘルスプロモーションと健康支援策	健康増進施策の世界的潮流、日本の健康政策、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション	
5～6	疫学	疫学指標、疫学の方法、疫学統計	
7～9	NCD・メタボリックシンドロームと健康対策	ライフスタイルと健康、肥満、メタボリックシンドローム、生活習慣病(NCD)の成因と予防策	
10	感染症と健康対策	感染・発病にかかわる因子、感染症法、学校感染症、予防接種、消毒・滅菌、主な感染症とその予防	
11	環境保健	環境衛生と健康、熱中症予防等	
12	労働衛生	職場の健康管理、作業関連疾患、労働衛生法規	
13	精神保健	心の病(症状と障害)、精神疾患を有する患者の動向、早期発見と予防	
14	国際医療保健	WHO、世界の健康対策	
15	終講試験		

科目名	社会福祉論	時期	2年次　前期･後期
講 師	医療相談員	単位(時間)、回数	2単位(30時間)、15回
科目の概要	看護の対象である人々が利用している福祉サービスの意義と制度のなりたちや内容を学ぶ		
目 標	4　現代社会における社会福祉の意義･役割を理解し、制度や諸サービスの成り立ちと内容について理解する 5　保健･医療･福祉の連携と協力の意義を理解する		
ディプロマ･ポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力　☑ 2.看護を実践する力　☑ 3.探求する力　☑ 4.連携･協働する力		
使用テキスト	新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉 メヂカルフレンド社		
参考文献			
評 価	筆記試験		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法
1～2	生活と福祉	1 なぜ福祉を学ぶか 2 生活基盤 3 ライフスタイル 4 人間の集団としての働き	講義及び演習
3～5	社会保障の概念･歴史･制度体系	1 社会保障概念の形成 2 日本の社会保障の歴史的発展 3 社会保障の定義と制度の範囲･分類 4 社会保障の目的と機能 5 社会保障の方法と財政	
6～11	わが国の社会保険制度	1 社会保険の役割と制度の分類 2 医療保険制度 3 高齢者医療制度等 4 保険医療制度 5 医療提供体制と国民医療費 6 介護保険制度 7 年金保険制度 8 労働保険制度	
12～14	社会福祉歴史と援助技術	1 慈善事業から福祉国家まで 2 わが国の社会福祉の歴史 3 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法 4 社会福祉援助技術	
	社会福祉の諸制度と施策	1 生活保護法と施策 2 児童福祉と施策 3 障害児の福祉施策 4 障害者の福祉施策 5 高齢者の福祉施策	
	社会福祉行政のしくみ 社会保障制度の動向	1少子高齢社会 2社会保障制度改革	
15	終了試験		

科目名	医療と倫理	時期	２年次　前期
講 師	医師、看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	１単位(15 時間)8 回
科目の概要	医療における倫理的諸問題を理解し、看護の対象者である人間の尊厳と権利を擁護する専門職種としての責務を学ぶ。		
目 標	1 医療における倫理的課題を理解する 2 看護専門職としての倫理について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力　☑ 2. 看護を実践する力　☑ 3. 探求する力　☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院　系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 看護職の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会		
参考文献			
評 価	筆記試験		

授　業　計　画

回数	項 目	内　容	方法	担当講師
1	倫理学の基本的な考え方	1 医療と倫理　2 医学の歴史 3 倫理のとらえ方　4 生命倫理の理論	講義	医師
2	先端医療と倫理	1 性と生殖の生命倫理 2 先端医療と制度　・移植医療、再生医療、遺伝子医療		
3	死の生命倫理	1 死と医療 2 死についての生命倫理の課題		
4	看護倫理とはなにか	1 看護倫理を学ぶ意義 2 看護の倫理原則　3 看護実践上の倫理的概念	講義	専任教員
5	倫理的問題へのアプローチ	1 倫理的問題へのアプローチ法 2 症例検討シート 3 事例におうじた看護倫理の問題と事例分析	講義 演習	
6･7	看護専門職の倫理	1 看護実践と倫理 2 専門職の倫理綱領 3 保健師助産師看護師法と倫理	講義 演習	
8	終了試験			専任教員